

公の施設目標管理型評価書【指定管理者施設用】

施設名	新潟市芸術創造村・国際青少年センター		
管理者名	環境をサポートする株式会社きらめき	指定期間	平成30年4月1日 ~ 令和3年3月31日
担当課	教育委員会地域教育推進課 ・ 文化スポーツ部文化政策課		
所在地	新潟市中央区二葉町2丁目5932番地7		
根拠法令			
設置条例	新潟市芸術創造村・国際青少年センター条例		
施設概要	敷地面積：10,633.07㎡ 延床面積：旧校舎棟 4,091.40㎡ 旧体育館棟 2,044.09㎡ ELV棟 38.12㎡ 構造・階高：旧校舎棟 鉄筋コンクリート造4階建て 旧体育館棟 鉄筋コンクリート造2階建て ELV棟 鉄骨造4階建て 主な施設内容：1階 工房・ギャラリー・休憩室×2部屋(各128㎡)、ラウンジ(178.4㎡) 2階 クリエイティブスタジオ(94.7㎡)、クリエイティブルーム×2部屋(94.7㎡、96㎡)、コミュニティスペース(146.2㎡)、水と土の文化ギャラリー(96㎡)、ワークショップルーム×2部屋(各32㎡)、和室・茶室(32㎡) 3,4階 研修室×16部屋(各32㎡)、指導員室×2部屋(各33㎡)、多目的スペース×2部屋(各128㎡)、談話室×2(各64㎡)、調理室(94.7㎡)、音楽室(94.7㎡) 体育館棟 体育館(1,755.9㎡)、軽運動場(318.7㎡)、浴室・脱衣所×2(109.8㎡) 屋外 屋外炊事場(147.4㎡)		

施設設置目的
文化芸術活動の支援、青少年の体験活動及び国際交流活動の支援並びに文化芸術活動を行う者、青少年及び市民相互の交流の推進をすることで、文化芸術の魅力の発信及び創出並びに次代を担う心豊かな青少年の育成をし、もって市民の豊かな生活の実現に資することを目的とする。
管理・運営に関する基本理念、方針等
1 施設の基本理念 市民と行政が一体となり、青少年健全育成と文化芸術活動にかかる様々なプログラムの展開と支援・交流のための施設を整備することにより、感性を磨き心豊かな子どもの育成及び次世代を担うアーティスト・クリエイターの育成を図る。
2 事業の運営方針 ①家庭や学校とは異なる場所で、様々な活動を体験することにより、次代を担う「心豊かな子どもを育てる」ことを目的とした施設とする。 ②国内外を問わず、アーティストやクリエイターの創作活動の支援及び青少年等との交流、市内文化施設等との連携を図り本市独自の文化芸術の魅力発信を担う。 ③市民交流及び市民力・地域力による青少年健全育成と文化芸術の創出を図る。
3 施設の管理運営方針 ①委託業務について善良なる管理者の注意をもって実施する義務を負うものとする。 ②施設の設置の目的を踏まえて、機能及び役割を果たすとともに、各機能が有機的に連携し、相互に補完しあいながら一体的な管理によりその効用を最大限発揮させるよう、積極的に努力する。 ③施設の業務全般について計画立案を行い、目標及び業務計画を策定し、その一元的管理方針のもとで、多岐にわたる業務を総合的な調整を行い、相互連携を保ち、適切に進捗管理を行い実施する。 ④施設の管理について創意工夫のある企画や効率的な運営等により、施設利用者の多様なニーズに応え、質の高いサービスの提供を図り、効果的・効率的な管理運営を目指す。 ⑤業務の実施にあたって、市の職員と密接な連絡をとり、施設の目的の達成を図るものとし、その実施状況を記録する。

平成31年度(令和元年度)

視 点	評価項目	評価指標	実績	評価 ※	評価コメント ※
市民	施設利用者数	施設利用者数 年間58,000人以上	77,458人	A	創意工夫を凝らした多様な事業の提供により、目標を大幅に上回ったことは高く評価できる。
	施設稼働率	年間50%以上	41.30%	C	改善はみられるものの、全体として目標を達成できなかった。より一層の改善に励まれ、指標の達成を望む。
	事業の実施(文化芸術)	滞在制作する芸術家等 年間8組	8組	B	
	事業の実施(青少年)	青少年健全育成事業 年間12回以上	18回	B	
	各種サービス別満足度	利用者アンケートで「満足」 が85%以上	86.90%	B	
	苦情・要望への対応	苦情・要望には原則5営業日 以内に対応	5営業日以内に対応	B	
財 務	適正な財政運営	収入計画に基づく収入の確保 及び経費の執行	予定どおりの収入を得ることが できた。	B	
	適正な財務管理	財務マニュアルの作成及び 収支の適切な記録	作成及び記録済	B	
業 務	安全責任者の配置と安全確保 体制の確立	・防災訓練の実施年2回以上 実施 ・マニュアル作成	年2回の訓練を実施	B	
	事件、事故発生時の対応の 適切さ	AEDの使用法の周知徹底	年2回研修を実施	B	
	コンプライアンス	コンプライアンス研修の実施 1人あたり年1回以上	1人あたり年2回	B	
	業務仕様に定める事項の 遵守	その他の業務仕様書等に 定める事項の遵守	遵守	B	
人 材	職員研修の実施	内部・外部実務研修の実施 1人あたり年2回以上	1人あたり年3回	B	
	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	遵守	B	

【評価基準】

A: 要求水準(評価指標)を達成し、かつその達成度・内容が優れている

B: 要求水準(評価指標)が達成されている

C: 要求水準(評価指標)が達成されていない

※評価について、「A」を付ける場合は「優れている点」を、「C」を付ける場合は「達成されていない点」を、「評価コメント」欄に明記してください。(評価指標が達成されているだけなら「B評価」で、その達成度や内容が優れていなければ「A評価」とはなりませんので、ご注意ください。)

指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)

新型コロナウイルス感染症の対応により、3月の来館者は昨年度の8,644人から今年度は531人へと大幅に減少した。にもかかわらず、来館者は昨年度より約3,000人増え、目標値の58,000人を大きく上回る77,458人であった。2年目となり認知度が向上したことや学校園の利用が大幅に増えたことなどが影響している。今年初めて開催した「ゆいぽーと感謝祭」でも目標を大幅に上回る参加者を得ており、さらに認知度が向上したものと考えられる。

学校・園の教育課程内の利用が63校園と大幅に増え、人間関係作りプログラム「にいがたアドベンチャー」を積極的に活用していただいた。すべての学校から「大変良かった」と評価していただいております。次年度の利用を予定していただいている。

AIR(アーティストインレジデンス)では、回を追うごとに応募者数が増えており、その約半数は海外在住のアーティストになっている。resartis(海外へのAIRの情報発信機関)への参加など、知名度向上に努めてきたことが奏功している。また、他のレジデンス施設との交流を進めるなど、レジデンス活動の充実に努めている。

施設稼働率については、残念ながら目標に達することができなかった。高等学校の部活動や学習合宿、スポーツ少年団の合宿などをターゲットに合宿プランを策定し配布するなど、青少年エリアの稼働率向上のための取組を進めてきたが、学校以外の団体・企業などへの訪問や市外県外への働きかけを強化し、目標達成に努める。

所 管 課 に よ る 総 合 評 価 (所 見)

現地調査日: 令和2年4月30日

新型コロナウイルス感染症対策の影響があったにもかかわらず、施設利用者数が昨年度よりも増加しており、目標を大幅に上回ったことは高く評価できる。

一方稼働率については、青少年対象施設を中心として改善はみられるものの、全体として目標達成することができなかった。引き続き青少年の合宿利用や、文化芸術団体等の創作活動利用の促進に努めることでさらなる改善を図りたい。